



大和小学校 百周年記念事業



大和小学校は平成15年に創立百周年を迎えます。明治36年に「尋常大和小学校」が創立され、翌年高等科を併置以来、明治・大正・昭和・平成と日本の大きな流れとともに歩んできました。

現在、「迎えよう感謝と希望の百周年」をスローガンに「大和小学校創立百周年記念事業実行委員会」が組織され、記念事業として記念式典の挙

行、記念誌の刊行、記念ミニコンサート、タイムカプセルの閉封、児童用社会科副読本の作成等、準備を進めてきました。

6月には創立70周年記念のタイムカプセルを開封しました。卒業生やその家族の方々と対面して思い出話を花を咲かせました。8月にはタイム

カプセルの展示会が開催されました。児童会では「未来へとびだせ大和小、思い出つまった100周年」のテーマをつくり、各行事に取り組んでいます。11月15日に開かれる午前の部の児童中心の記念式典は、「式典と100周年記念・いちようまつり」を計画しています。

関東大震災の年(大正12年)に、卒業生が校庭の片隅にあって木を正門前に植樹したいという木が現在は高さ20m近い大木となり、大和小学校のシンボルとなっています。

子どもたちは学習の一環として、ぎんなんを拾い、保護者や地域の人に安価で販売しています。売り上げの使い道は児童会を中心に子どもたちが考え、学習や生活の備品を購入したり、地域福祉への寄

附などに使われています。子どもたちは学校のシンボルであり、「実のなる木」でもある大きないちようの木と一緒に百周年を「いちようまつり」として祝うことを楽しみにしています。



大和小学校のシンボル
2本の大きないちようの木

大和の中学生、県代表として

関東大会、全国大会に出場

大和市の中学生が、市内大会、地区大会、県大会を経て県代表として関東大会・全国大会に出場しました。出場した学校名・選手名は次のとおりです。(敬称略)

〔関東大会〕

○ソフトテニス

男子 個人戦
光丘中(西川・小松ベア)
女子 個人戦
光丘中(原田・中丸ベア)

男子 個人戦
光丘中(原田・中丸ベア)

男子 個人戦
光丘中(原田・中丸ベア)

男子 個人戦
光丘中(原田・中丸ベア)

男子 個人戦
光丘中(原田・中丸ベア)

男子 個人戦
光丘中(原田・中丸ベア)

男子 個人戦
光丘中(原田・中丸ベア)

○剣道

女子 個人戦

光丘中(山口美紀)

○陸上

女子 2年100m走

つきみ野中(松田愛里)

女子 1年走り幅跳び

鶴間中(有田奈央)

○水泳

女子 100m平泳ぎ

波谷中(仲倉理亜)

女子 200m・400m自由形

つきみ野中(吉井優美)

〔全国大会〕

○ソフトテニス

女子
光丘中(原田・中丸ベア)

○ハンドボール

男子
波谷中チーム

○陸上

女子 400mリレー

光丘中チーム

○水泳

男子 100m平泳ぎ

引地台中(立石裕太郎)

男子 400m自由形

鶴間中(菊間亮平)

8月5日には市役所1階ロビーで壮行会が開かれ、市長と教育長からの激励の言葉、会場に届かせた市民からはあたたかい拍手を受けました。また、各代表選手には教育長から派遣費、全国大会に出場する選手には市長から奨励金が手渡されました。全国大会では健闘及ばず、上位入賞を果たすことはできませんでした。

変わる中学校の修学旅行

以前は中学校の修学旅行というと、奈良・京都をバスを運んで見学する、というのが一般的なスタイルでした。

現在でも行き先は奈良・京都方面が主流ですが、観光バスではなく、事前に学習した見学地を路線バスや電車でもつなぐ別行動や、タクシードル効率よくまわり、ガイド兼用の運転手から丁寧な説明を受けるというスタイルをとる学校が増えています。

また、行き先も奈良・京都ではなく、東北や広島に行く学校もあります。

下福田中学校では以前から山形県の孤島(飛鳥)での漁業体験を行っていましたが、今年も新幹線で広島に行き、原爆の語り部の話を聞き、平和記念資料館を見学して平和について学習しました。その日のうちに遊覧船で宮島に行き、歴史を学ぶとともに日本のいしえの美を堪能することができました。



2日目は宮島から瀬戸内海に浮かぶ白石島(岡山県)まで船を借り切り、3時間の船旅を経験しました。白石島では漁業体験をしました。島を去る時には、下福田中学校の生徒が「よさこいソーラン節」を踊り、地元中学校の校歌を歌いました。これに対して島の名物おじさんが温かいエールを送る、という感動的な別れを体験することができました。

「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。年2回の発行を予定しています。気軽に読んでいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

教育研究所では子ども科学教室を、6月に2回、夏休みに3回、10月に2回、12月に2回、計10回実施することになりました。

子どもたちが試行錯誤を繰り返しながら一つのものを作り上げる過程の中で、科学する心や探究心を育み、完成させた喜びや本物の楽しさを体験させることを目的に開催しています。

6月の顕微鏡づくりでは、「自分が作ったものは、自分が作った様子を見て、授業を少し工夫するだけで飛び方がすくく違うことが分かった。」などの感想が寄せられました。また、今年度から小中学校の教職員がボランティアとして指導に加わり、充実した科学教室となりました。

6月・8月に参加した教職員は延べ28名でしたが、参加した教職員からは「普段、学校では見られない子ども

『子ども科学教室』

顕微鏡でミカスキモやボルボックスなどのプランクトンが見えたと感嘆の声を上げていました。

8月に開催した夏休み中の教室には140名の参加となりました。参加した子どもたちからは、「綿菓子器がアルミ缶などで作ることができ、少しだけ食べられてよかった。」「ケミカルライトはすくく明るかった。」「ペックボトルロケットは、

少し工夫するだけで飛び方がすくく違うことが分かった。」などの感想が寄せられました。また、今年度から小中学校の教職員がボランティアとして指導に加わり、充実した科学教室となりました。

改善するヒントを得た。という感想が寄せられています。



大自然の世界へ

～南林間小学校で「先輩の授業」～



児童に鹿の角を見せる小寺さん

写真家小寺卓矢さんが去る7月3日、母校である南林間小学校において6年生の児童を前に「先輩の授業」を行いました。北海道阿寒の森で撮った写真の数々がスライドで映し出され、光と空気が織りなす幻想的な美しさは、会場を圧倒しました。動物編では、キツツキの穴、ヒ

グマの足跡、オニグルミを食べるエゾリスなどが紹介され、「小動物、木の實、キノコ、コケ：すべてが森を育てて育みとっていのです」という話に、児童は驚きの声を漏らしながらスクリーンに見入っていました。また、小寺さんは、大学生の頃の夢や悩み、アラスカの自然や野生動物を撮り続けた写真家故星野道夫さんとの出会いなどについて話されました。そして、「僕はたくさんの人に出会えたこと、やりたいことがとても嬉しい」と話を結びました。

体験コーナーでは、阿寒の森のマップボックリや鹿の角等を児童一人ひとりが実際に手に取り、臭いを嗅いだり、たいてみてみたり、かかってみたりして小寺さんとの交流を楽しみました。



また、ボランティアの方からは「地域のみんなで子どもたちを育てるといふ意識を持つことは、大切だと思います」「勉強だけでなく、もの考え方の基本的なこと教えた」「等の声が寄せられました。

市長による学習支援

土屋市長が、7月10日に市立波谷中学校で、「英語に親しもう」という学習支援のため教壇に立ちました。今回の学習支援は、今年度より実施している「学校支援ボランティア制度」の一環です。この制度は、家庭・地域・学校、そして行政にかかわる人々が子どもを中心にしてパートナーシップを結ぶこと

で、子ども一人ひとりの学びを深め広げ、さらに



ギターで英語の歌を指導する土屋市長

「英語に親しもう」という学習支援のため教壇に立ちました。授業では、土屋市長が、英語に興味を持つきっかけとなった中学生時代のエピソードや市長という仕事上、要求される英語の大切さについて熱く思いを語りました。その後、子どもたちは、「コンドルは飛んでいく」「イマジンはハッピークリスマス」の3曲を市長のギター演奏のもとに歌う中

で、歌詞が意味する内容や聴いて覚える英語の楽しさを学びました。

「夏休み子どもまなびや」多くのボランティア

教育委員会では小学生が夏休みの自由研究や宿題、勉強などについて、相談したり指導を受けたりできる場所として、「夏休み子どもまなびや」をコミュニケーションセンター全館で開催しました。相談・指導に当たるのは、教育委員会の公募などに応じた地域のボランティア（90名）で、子どもたちの学びのパートナーとして参加していただきました。

7月23日から25日までをコミュニケーションセンター中央林間会館など7館で、8月5日から7日までをコミュニケーションセンター公所会館など8館で、8月20日から22日までをコミュニケーションセンター緑野会館など5館で開催し、延べ1163名の小学生が「プリント」や「ドリル」「ポスター」などの課題を持って参加しました。

参加した小学生は「ボランティアの人に相談しながらできるし、みんなと一緒にやった方が、家よりはかどる」とうれしそうに話していました。子どもたちにとっては、「自分で決めた課題に取り組む」ということが意欲につながり、同時にそれを認め、支援してくれる大人がいることが喜びにつながっていることが喜びにつながっているように思います。

授業がかわる ITを授業に生かす



器を使って情報収集活動を行い、友だちや身近な人々にもわかるようにコンピュータを使った発表に役立てています。

5年生では、採取した境川の水のように調べたかなど、実験の様子をデジタルカメラで撮り、報告会などに活用しています。

6年生では、新しく委員会活動やクラブ活動に参加する4・5年生に活動内容がわかるように、デジタルカメラやコンピュータを使ってニュース番組やホームページなどを作っています。

北大和小学校では、人や自然に興味を持ち、よりよい自分やよりよい社会・環境を人と共に築いていけるような子どもを育てるために、コンピュータやデジタルカメラ・録音機器などITを使った学習を取り入れています。

1・2年生では、デジタルカメラで撮影した植物の成長の様子や身近な地域の様子などを子どもたちに見せて、親しみをもつ態度やくわしく伝える表現力を育てています。

3・4年生では、身近な地域を見直すためにデジタルカメラや録音機

子どもたちからは、「デジタルカメラの操作やコンピュータのいろんな機能がわかっておもしろい」「デジタル図鑑やインターネットからの情報収集が簡単にでき、いろいろな学習でも使える」「工夫がされた友だちの発表を聞いてわかりやすい」などの感想が多く出されています。

北大和小学校では、このような情報教育や教育における情報通信ネットワーク利用のあり方についての研究発表を、10月31日(金)に市内の教職員や県内の教育関係者を対象に行うことになっています。

遊歩道を清掃する
つきみ野中ボランティア委員会

★クリーン作戦キャンペーンに 小中学生が参加★

5月19日～6月1日のクリーンキャンペーン期間に市内小中学校の児童生徒が積極的に参加しました。各小中学校で行われた「学校周辺クリーン作戦」では、普段の清掃時間ではできない箇所を清掃したり、普段の日よりも念入りな清掃活動を行いました。また、5月25日に行われた「緑の拠点クリーン作戦」にはつきみ野中学校のボランティア委員会が参加しました。日曜日にもかかわらず、午前9時から1時間、39名の生徒が学校周辺と近くの遊歩道や公園の清掃活動を行いました。



大和まつりで活躍する中学生ボランティア

今年で26回目を迎えた「大和まつり」が5月10日・11日に引地台公園を会場として開催され、2日間で延べ人数150名の市内の中学生が「子どもギネスチャレンジコーナー」にボランティアとして参加しました。

募集し、応募した中学生は運営スタッフとして参加しています。中学生は、青少年指導員と協力してゲームの企画とそのネーミング、材料購入や必要物品の作製、さらには看板作り作業や現地での事前練習、当日の役割分担など、準備から当日の運営までを行います。

「子どもギネスチャレンジコーナー」は、幼児からお年寄りまで誰でも気軽に参加できるゲームとして「ドキドキ☆ボール」「豆vsはし」「キャッチングシュート・DX」「タッチDEあんなさー」の4つが行われました。

みんな話合い、協力し合っていました。両日も好天に恵まれ、約1600名の市民の皆さんの参加がありました。

このコーナーは、大和市青少年指導員連絡協議会が運営していますが、「ふれあい活動の推進」と「ボランティア体験の場の提供」を目的として、3年前から市内全中学校にボランティアを

大人や小さい子どもたちへのゲームの説明や運営スタッフとしての動きの未経験さなど、戸惑いと大変さを感じながらの体験でした。

人たちとのふれあい交流などがあり、「準備は大変だったけど、楽しかった。」「新しい友達ができた。」「たくさんのお客さんが来てくれて、とてもやり甲斐があった。」等の感想が聞かれました。

高校生になっても協力参加している生徒もいました。



ゲームを手伝う中学生ボランティア

親子で引地川クリーン作戦 —福田小学校—

6月21日、総合的な学習の時間による環境学習の一環として福田小学校6年生の引地川クリーン作戦が実施されました。今年で4回目ですが、年々関心も高まってきています。

今年土曜授業参観日に行うことになって、たくさん保護者の方々と一緒に実施することができました。

子どもたちの作文には ① 自転車や車のバンパーを拾い大きなゴミに驚いている様子 ② わき水や川の流れなど川遊びを楽しんでいる様子 ③ ザリガニやメダカ、カニ、貝など生き物を見つけて喜んでる様子 ④ グループ行動をする中でお母



方々からは次のような感想が寄せられています。

「子どもたちとゴミを拾いながら川の流れ、緑に恵まれたこの地で自然と共に勉強できる子どもたちは幸せだと思います。心ない人たちのために自然が守れなくなることを「ゴミ拾いながら感じ取れたと思います。どの子も楽しそうに生き生きとしていましたし、参加されたお父様お母様同士交流がもてたと思います。」

引地川がきれいになり、自然とふれあう以上に多くの人のふれあいがあり、今後も引地川クリーン作戦を継続していくそうです。

さんの優しい気配り、お父さんのたくましさを感じ取っている様子などが書かれていました。また、参加された保護者の

芝生化で快適なスクールライフ

上和田小学校校庭芝生化整備事業

9月1日、上和田小学校の2学期の始業式は芝生の上で行われました。子どもたちは柔らかな芝生の上で遊んで、校長先生の「芝生を大事にして、大いに遊びましょう。」という話を聞いていました。

大和市では平成13年に保護者の代表・学校の代表からなる校庭芝生化研究委員会が校庭芝生化の実現のために協議を重ね、子どもたちが緑と親しみ、積極的に校庭に出て遊ぶことや砂塵対策としての効果も期待できる、とする報告書を出しました。



芝生の上で遊ぶ小学生

平成14年度には上和田小学校を初めてのモデル校として3年計画で整備を始めました。芝生の種類は踏まれることに強く、維持管理のしやすい暖地型芝生のティフトンバミューダとし、校庭の1/3を施工しました。

平成15年度はトラックの内側を中心に施工し、夏には校庭の1/2が芝生で覆われました。来年度に完成の予定です。

芝生化により子どもたちは好んで芝生の上で遊ぶようになり、遊びもダイナミックになっています。また、芝生にしたことで夏場が涼しくなり、校庭の東側の民家に飛んでいくことが多かった砂塵も無くなりました。

小中学生の2割が家で勉強しない

本市の教育意識調査より

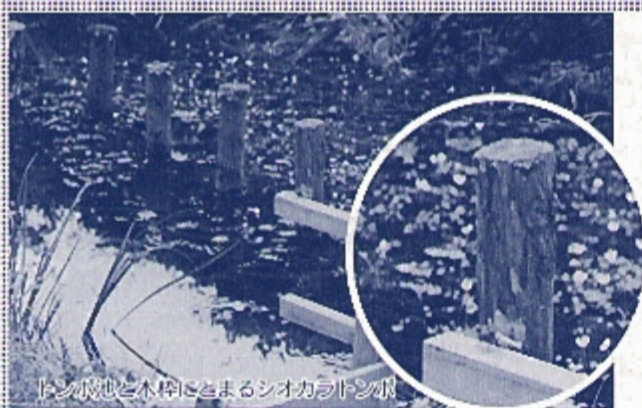
8月22日の教育研究所発表会で「教育意識に関する調査研究部会」が昨年2月に市内小中学校10校の小学4年生から中学3年生までの3424名を対象に行ったアンケートについての調査結果を発表しました。その中で次のようなことが明らかになりました。

- 子どもたちの生活が夜型になり、寝不足状態になっている。
- 小学生でテレビを5時間以上見る子が2割強いる。
- 好きな教科の第1位は男子が体育、女子が音楽である。
- 2割近くの子どもたちが家庭学習をしない。
- 子どもたちは友だちとの約束はよく守るが、学校やクラスのまわりはあまり守らない。
- 女子の方がファッションに敏感で、マニキュアを小中学生でしてもよいと思っている女子は5割から7割である。
- 以上のような発表がありました。アンケート結果をまとめた研究紀要第53集（平成15年3月発行）には102項目にわたる調査結果が載っています。

また、11月21日の教育講演会でも今回の調査研究を指導された横浜国立大学教授の岡田守弘先生が調査結果をもとにお話をされます。なお、詳しいことにつきましては教育研究所にお問い合わせください。（TEL 26015213）



『大野原つ子トンボ池』



トンボ池と木枠ととまるシオカラトンボ

大野原小学校にトンボ池ができて2年が経ち、今では、授業中に1年生の教室に池のトンボが入ってきて子どもたちを喜ばせたり、生活科や3・4年生の理科の授業でトンボ池を中心とした学習を展開しています。

同校では、以前から総合的な学習の時間を使って地域の引地川の水生生物調査や清掃活動などの環境学習を行っていました。

そこで、子どもたちが地域の自然に目を向け、自然に対する感性や畏敬の念を持ち、そこで起きる様々な課題を自分なりに解決できる力を育てるため、平成13年、いろいろな生き物が共に棲めるトンボ池（「オートー」を作りました。

まず、「学校にもトンボがすめる池があったらいいな」という願いや思いを叶えるため、子どもたちが全校からトンボ池のデザインを募集し、そこに棲む生き物や生態系についてゲストティチャーを招いたり、インターネットで調べたりしました。全校児童630人が移植ゴテやスコップを使って穴を掘り、PTAのお母さん方と一緒に荒木田土を貼り、トンボがとまりやすいように杭を打ち、水草やガマの穂なども植え、池の中には、引地川に棲むオイカワ、タモロコ、モツゴやドジョウなどの生き物を入れて、「トンボ池」を完成させました。

学校では、子どもたちが生き物と環境のつながり、人と人とのつながりなどに気づいてくれることを願っています。

草柳小学校で総合防災訓練

大和市では、8月30日、主会場の草柳小学校と大和町で大和市総合防災訓練を実施しました。

午前9時のサイレンを合図に訓練は開始され、草柳小学校長は学校地震対策本部を同校に設置し、市災害対策本部と連携しながら訓練を実施しました。

同校教職員は安全点検、負傷者の応急処置と搬送の訓練の後、炊き出し訓練や自衛消防隊による放水訓練、校庭や体育館で行われたさまざまな訓練に参加しました。



初期消火訓練に参加する子どもたち